

## 第1回熊本市西部環境工場代替施設に係る焼却炉及び事業方式検討委員会 会議要旨

日 時 平成21年12月22日(火)13:00~

場 所 熊本市役所4階モニター室

出席委員 7名(50音順)

荒井喜久雄(副委員長)、岩永宏平、篠原亮太(委員長)、島岡隆行、  
重浦睦治、坂本孝広、原本靖久

(欠席)鳥居修一

事務局 環境保全局職員他

傍聴者 3名

次 第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長挨拶
- 4 委員紹介
- 5 事務局紹介
- 6 委員会設置要綱説明
- 7 委員長・副委員長の選出
- 8 審議
  - (1) 事業概要、検討経緯の確認
  - (2) 検討方法とスケジュールの確認
  - (3) 溶融の有無等の検討
  - (4) 公害防止基準の検討
- 9 その他
- 10 閉会

### 議事録

#### (1) 開会

【事務局より、開会の挨拶を行った。】

#### (2) 委嘱状交付

【市長より、委員の委嘱を行った。】

#### (3) 市長挨拶

【委員会の開催に先立ち、市長より挨拶を行った。】

(市長、公務により退席)

(4) 委員紹介

【各委員より自己紹介を行った。】

(5) 事務局紹介

【事務局より自己紹介を行った。】

(6) 委員会設置要綱説明

【委員会の設置要綱及び傍聴要領について確認した。】

(7) 委員長・副委員長の選出

【互選により委員長に篠原委員を、副委員長に荒井委員を選出した。】

【篠原委員長より、一言挨拶をいただいた。】

(傍聴者入室)

(8) 事業概要、検討経緯の確認及び検討方法とスケジュールの確認

【事務局より資料説明のあと、質疑応答を行った。】

(委員) 有料化によって焼却対象ごみは、どのような変化を示したのか。

(事務局) 平成 21 年度には、20%を上回る減少が見られると予想している。西部工場代替施設の施設規模の算定においては、平成 16 年 3 月に策定した「ごみ減量リサイクル推進基本計画」の中で、21.7%の削減目標を立てており、それが達成されたという条件で算定している。

(委員) 施設規模の検討の中で、災害廃棄物や広域連携を考慮して、余裕を持った施設規模を見込んでいるのか。

(事務局) 施設規模の検討では、合併した富合町、今後合併する城南町と植木町を見込んだ内容としている。災害廃棄物については見込んでいない。災害時には、ごみ置場を旧埋立処分場の中に配置し、少しずつ処分していくこととしている。

(委員長) 西部工場代替施設が完成するのは、いつか。

(事務局) 平成 27 年度中を予定している。

(委員長) 将来のごみ量等の見通しは今後示されるのか。

(事務局) 施設規模の算定は、次回提示する予定である。完成から 7 年後の平成 33 年を目標年度として計画をしている。その中には、熊本市のごみ処理も、今後どうなるかという問題が含まれており、来年にごみ処理基本計画を策定する計画もあり、それによって、見通し量は少し変わる可能性もある。

(委員長) 私見では、施設規模は、無駄がなく、メンテがしやすく、効率のいいものがよいと考える。ごみ量推計は、最大の焦点なので、しっかりと情報を集めて行うこと。

(委員) 広域の当時決められた方向があり、それにのっとって実施し、新たに生じた条件を付加して精度を上げていく方法が適当だと思う。

(委員) 新埋立地は、延命される予定であるが、いつまでとなったのか。また、焼却残さの埋立について、埋立地の周辺住民の方々による制約等はあるのか。

(事務局) 埋立期間は、現在のところ平成 39 年までと考えられる。埋立物の制約は、生ごみについては埋立てないとしているが、他に制約はない。

(委員長) 新埋立地である扇田環境センターの視察は予定しているのか。

(事務局) ご要望があれば、設定する。

#### (9) 溶融の有無等の検討及び公害防止基準の検討

【事務局より資料説明のあと、検討を行った。】

(委員) 溶融の有無の検討において、灰のまま埋立地に埋立てることも選択肢の1つとして考えているか。

(事務局) 東部工場の灰については、これまでどおり埋立てが必要と考えている。セメントリサイクルを大規模にやるとなれば、その分も対象になる。ただし、集じん灰については、埋立地での塩分濃度の問題がある。現在はフレコンバッグ方式としているが、西部工場の代替施設で溶融するという1つの選択肢も可能性があると考えている。

(委員長) 西部工場代替施設に溶融施設を入れたら、東部工場から持ってくるということか。

(事務局) 西部工場代替施設に溶融を導入した場合は、飛灰はできれば溶融したほうがあとの処理がよいと思う。また、焼却灰についても、一部は受け入れることも可能かと思う。ただ大きな量は、そのまま残るかセメントリサイクルという形になると思う。

(委員) 東部工場の焼却灰や飛灰を西部工場代替施設で受入れて、それを溶融する、セメント化する、埋立するという選択肢で絡ませると、非常に話が複雑になる。基本的な考え方として、まず西部工場代替施設の焼却灰と飛灰をどうするか検討し、結論を出して、その上で、仮に西部工場代替施設で溶融を導入する場合、東部工場の焼却灰と飛灰を受け入れて溶融するか、セメント化するか、埋立するかを議論する形にしないと、収集がつかないと思う。基本的な考え方として、仮に溶融とした場合、スラグの安全性、事業のための安全性は優先される。例えば、東部工場の焼却飛灰を溶融することは、固執した選択肢では考えない方がよい。安全性といった内容に問題がある可能性がある。絞っていくシナリオをもう一度整理したほうがよい。

(事務局) できれば、ある程度方向性を示してほしい。

(委員長) 当面は西部工場代替施設に集中して考える。可能ならば東部工場の灰を受け入れるということを進める。

(委員) 現在の情報では、判断をしかねる。評価軸を決めて、評価をして提示していくことが多分一番いいと思う。

公害防止基準については、こういう基準で、こういう公害防止基準にしたいという考え方が出ているので、次回決定は可能だと思う。

(委員長) 灰をどのように有効利用するかを考えた場合、灰をそのまま別な形で有効利用することも考えられる。ストーカだけではなくキルンも加え、未燃率を減らしていくことも考える必要があるのではないか。

(委員) 先ほどの意見と同じ意見であるが、結局、評価軸がなければ、決められないと思う。

(事務局) 現在、各自治体における状況やプラントメーカーにヒアリングを実施している。これを整理

し、次回報告する。次回にどのような評価をするのかを基準も含めて示したいと思う。

(委員長) コストと性能の関係は、相反することがある。評価項目は、優先順位を付けると、ある程度絞りができてくると思う。また、焼却方法にしても溶融方法にしてもたくさんの種類が出ている。方式にしても少し量が少ない気がする。

(委員) 今回の資料の中で読み取れる項目を抽出し、評価軸を決めて整理すれば、比較的分かりやすい評価ができると思う。

(委員長) 焼却方法に影響を与えるため、生ごみをどうするかの方角性を示してほしい。

(事務局) 生ごみの処理方針は、まだ決まっていない。次回に考え方を示したい。

(委員) セメント化について民間事業者にアンケートを実施されているが、他にも実績があり、新聞で受入を表明している会社もあるため、調査対象に追加したらどうか。

また、公害防止基準については、これからいろいろな調査によって変わる可能性もある。今はこの基準値で仮定し進めないと議論できないと思う。今後さらに変更される可能性はあるという前提で、こういう数値で検討していくということで今日は合意できればと思う。

(委員長) 環境影響評価も途中段階であり、公害防止基準は参考値という形にしかならない。本日は、この設定で、これを達成するための施設を決めていくということになると思う。この設定値は、東部工場と遜色ない。

(事務局) 東部工場と比較すると、脱硝装置がプラスになっている。また、ダイオキシンの基準値を0.05と設定している。

(委員長) 次回はどのようなものが出てくるのか。

(事務局) まず、焼却炉の規模を算定した資料を示したい。また、溶融の内容について、できるだけ提示させていただきたい。そのときに、各自治体やプラントメーカーへの調査結果を示したいと思う。それから3回目については、最終的に溶融をどうするかの方角性を出していただけたらと思う。

(委員長) 次回は、具体的な話や各自治体及びプラントメーカーへの調査結果も出てくる。この会議は、原則公開であるが、次回の内容を鑑みると非公開にすべきという気もする。本委員会設置要綱第7条で、非公開は委員の3分の2以上の決議が要するということである。内容的に問題がありそうなので、非公開を提案させていただきたいがどうか。

(委員) 委員会設置要綱の第7条(1)にある、熊本市情報公開条例で第7条に掲げる条項に該当するとは、具体的に何か。

(事務局) 熊本市情報公開条例第7条では、不開示情報として「法人その他の団体に関する情報または事業を営む個人の当該事業に関する情報」、「開示することにより、当該法人等または当該個人の競争上の地位、財産権、その他正当な利益を害する恐れがあるもの」を掲げている。

(委員) 次回は各メーカーの性能等に関するデータが出されるのか。

(委員長) 出てくるのが想定される。非公開に賛同される委員は拳手を願いたい。

**【全員拳手】**

(委員長) 全会一致ということで、次回は非公開とする。

非公開の場合、議事録はどうなるのか。

(事務局) 公開、非公開にかかわらず、議事録は、原則公開とする。内容は要旨とし、発言者名は非

公開とする。

(委員) 各自治体及びプラントメーカーへのアンケート等により、情報が集まると思うが、可能な範囲でぜひ、ヒアリングを行い、真の情報をつかまえる努力も必要である。

(委員長) アンケートでは、マイナス面の情報は出せず、いい話しか出てこない。ヒアリングでは、そういうところを踏み込んで調査し、しっかり捉えていただくことをお願いする。

(委員) 最近はPFI方式を導入する事例が増えており、なかなか事業の状況に関する情報が出てこない。市町村の回答にも限界があることを認識していただきたい。

少し古いが、トラブル事例等についてアンケートを行い、ネット上で公開している。それを整理し、アンケートの検証データにしたらどうかと思う。

(事務局) 整理する。

#### (10) その他

(委員) 次の委員会の前段で、建設予定地周辺を見学させてほしい。

(事務局) 次回は2月9日でお願いしたいと思う。最終処分場及び予定地の見学の要望があったが、計画する。

(委員長) それでは次回は、2月9日に開催する。開始時間と場所は、追って事務局から連絡してもらおうこととする。

#### (11) 閉会

【事務局より閉会の挨拶を行った。】

以上